

視察調査・研修会等報告書

令和5年12月6日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長 篠崎 佳之 様

議員氏名(直井 一博)



研修・視察日時	令和5年11月6日
研修会場・視察先	東京おもちゃ美術館(東京都新宿区四谷4-20)
研修名・視察目的	閉校跡の施設を活用しており、親子のふれあいと木のぬくもりを大切に活動している施設であるとの情報を受けて、市内での閉校跡地や予定地での活用が検討できないか視察したもの。
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	副館長・星野氏
参加議員(同行者)	直井一博 石川敦子 大内晃子 山野井孝
調査概要	視察した施設は新宿区に戦前からあった築100年を超える小学校跡地であった。校舎の一部を借用し、木のぬくもりを感じられる施設とすること、そして親子で木のおもちゃと触れ合うことができる施設として運営されていた。年間利用者が14万人程見込まれ、コロナ下での減少はあったものの回復していること、東京での料金設定は独立採算が可能な設定であった。各地におもちゃ美術館の姉妹館が立地する中には、行政が設置し、その指定管理も受けており、この場合、料金は設置者の意向もあるが、市外からの利用者と差別化するなど、柔軟な対応が可能という。運営には、高齢者はじめボランティアの力が重要である。美術館という性質から、初期の施設改修等は、行政や林業協会などの支援が必要。
市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等	市内には、豊田地区の閉校跡地の活用が検討されているところである。今後も学校適正配置計画をはじめ、公共施設の在り方の見直しは続くと考えられ、統廃合による施設の跡地活用には地域の振興のためにも多くのアイデア、選択肢が重要となると考えている。 おもちゃ美術館は、地域産の木のおもちゃをふんだんに用意し、温もりの感じられる施設となっている。親子でふれあう姿は非常に穏やかで、市に立地する意義は大きいと感じる。来場者の買い物による地域の振興にもつながっているという話である。また、栃木県は、林業振興に力を入れているということ、市も平地林保護を打ち出している点でも、政策の親和

視察調査・研修会等報告書

和性が高いと考えられる。視察時点では北関東地内での姉妹館は立地していないということであったが、すでに検討を始めている自治体もあるように伺っている。

都内の人口 2 千人弱の村に年間 4 万人程の来館者がいるという話からも、木のおもちゃと触れ合う施設は、国内において多くの親子が求めていることが推察される。

屋内型の親子交流施設という点では、市内にキッズランドがあることから、これと競合しているように感じるものの、木材への理解促進・活用という観点や、地元・県産材の活用、閉校跡地等の利活用、そして地域振興に有効な施設と考えられることなど、多面的な効果が期待できるし、中心市街地にあるキッズランドに対し、郊外の施設であれば、駐車場の確保も容易であるうえ、目的別に利用できるのではないだろうか。

施設の改修費用は、美術館としての位置づけもあることから、意匠はこだわっているということで、まとまった億単位の額が必要ということである。ただ、地元業者の施工とし、地元産材を活用することによって、地域産業への還元が期待できる。国の交付金の活用も考えられることから、立地時の負担は軽減されるのではないだろうか。一方、運営の主力となるであろうボランティアの育成には十分な時間をかけて準備する必要があると考えられる。

小山市の子育て政策の充実にも寄与する点でも、立地要望を行いたい施設であった。